

Heroldo de HEL

N-ro 58 julio-septembro- 1995

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

053 苫小牧市糸井393-83 星田 淳方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
Ĉe Acuŝi HOŜIDA
Itoi 393-83, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

La danko de la pososotelistoj
Clas Svensson 2

Memoreroj el Tampereo U.K
タンペレ大会によせて
Toŝiko MINATO 港 利子 3

Novaĵo pri Sapporo Esperanto Societo
札幌エスペラント会近況
Emiko BABA 馬場恵美子 3

S-ro OOGA(Hokkajda Universitato)
raportas pri Ĉi-jara UK(Tampereo) kaj
IJK(Serovo)
OOGA Toŝio 大鋸敏夫 4

Eseoj pri Esperanto(el gazetoj)
エスペラントについてのエッセイ(誌, 網から) 6

HEL DANKAS(-os) POR VIA KOTIZADO
会費のお礼
ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 11

Ĉu vere? YAKULT estas JAHURTO
本当かな? ヤクルトはエスペラント語の
JAHURTOから? 12

El redakitejo 編集部から

2頁の La danko de la pososotelistoj
と4頁の S-ro OOGA raportas pri Ĉi-jara
UK(Tampereo) kaj JK(Serovo) は、パソコン
通信を受けた星田 淳氏から送っていた
だいた記事です。

今回は、雑誌や新聞からのものが多い
なりましたが、けっこうエスペラント
に関係した話はあるものですね。

会員に知らせたい記事を、雑誌や新聞で
見つけたらお知らせください。

それから、編集部の怠慢で記事依頼を手
抜きしていましたが、今後はどしどし依頼
してもっといろいろな人に書いていただき
たいと考えております。よろしくご協力の
ほど、お願いいたします。

(Ejko Abe 阿部映子)



La danko de la poŝtelistoj

Clas Svensson 12.13 1995-07-23

スエーデンの S-ro Svensson とは 4 月からインターネット経由で通信しています。はじめは週に 2 ~ 3 回も来ていたが、今どうやら月に 2 回ぐらいになりました。最近彼が書いてきた「小話」を紹介します。「鶴の恩返し」ならぬ「スリの恩返し」、いかがでしょうか。(苦小牧 星田淳)

Komercisto veturis en sia aŭtomobilo de unu urbo al alia por vendi varojn. Li ekvidis du virojn, kiuj per gestoj komprenigis al li, ke li haltigu la aŭtomobilon. Tiun ili do faris. Ili demandis, ĉu li permesas al ili kunveturi. Ĉar li estis bonkora, li invitis ilin eniri. Post tio li daŭrigis la veturadon.

La komercisto demandis siajn pasaĝerojn, kiuj ili estas, kaj kien ili deziras iri. Ili respondis tute sincere, ke ili ĵus venis el la malliberejo, ĉar ili estas poŝtelistoj. La komercisto volis haltigi la aŭtomobilon, sed la du viroj petis lin lasi ilin sidantaj, ĉar unu el ili havis tre difektajn ŝuojn.

- Ne timu, ni ne faros ion malbonan al vi.

Tiujn vortojn fidis la aŭtomobilisto, sed ĉar li volis veturigi ilin al alia urbo, li bezonis pli da tempo, kaj tial li pli rapide veturigis la aŭtomobilon, eĉ pli rapide ol estis permesite.

Post nelonge haltigis ilin policisto staranta apud la vojo. Li atentigis la komerciston, ke li veturis tro rapide, petis rigardi lian aŭtomobilan rajtigilon, notis liajn nomon kaj adreson kaj sciigis, ke li ricevos alvokon por pagi punsumon al la polica kaso.

Tio ege tagrenis la komerciston. Plu veturante li kolera diris al siaj du pasaĝeroj:

- Dudekjarojn mi jam aŭtomobilas. Neniam dum tiu tempo mi devis pagi punon pro tro granda rapido. Jen do la danko pro mia afableco, ke mi permesis al vi eniri kaj volas veturigi vin al via urbo.

- Ne tagrenigu, sinjoro, diris unu el ili, nenio okazos al vi.

- Ĉu vi ne vidis, ke la policisto notas miajn nomon kaj adreson? Post kelkaj tagoj mi devos pagi.

- Ne, sinjoro, vi ne devos pagi. Mi stelis lian notlibron. Jen ĝi estas.

タンペレ大会によせて

Memoreroj el Tampereoj U.K

港 利子

遠足で印象に残った場所と言えは最古の建築物といわれる木造建築を見学したこととサウナ風呂が興味深かったです。サウナの建物自体は私が想像した近代的なものではなくむしろフィンランドらしい素朴な感じのする物でした。15人も入れれば一杯になるような部屋に男女別に裸で入り、皆さんご自分の体調を考えて時間を合わせて楽しんでいました。またその時に入浴証書をもらいました。

ダンスの夕べにも参加しました。夕方7時過ぎに1時間かけてバスに乗って白夜の中、山頂のダンスホールへ向かうのですが生バンドの演奏とその年のコンクールで優勝した歌手の歌声はとても素晴らしいものでした。深夜12時にはまた森を抜けて帰ってきましたが車窓の外にはまだ明るさが消えていないようでした。

タンペレ自体は北海道で言うと小樽市くらいの規模の街だと思います。食事は肉料理が中心で少しばかり食傷気味。たまたま歩いていると日本食レストランが目に入り店に入ったところ店主が日本人とのこと。そして現地の新聞を出して下さり大会に関する記事が連日掲載されていることを教えてくださいました。また記事の中に本日5時からエスペ란ティストを歓迎して宿舎の近くでパレードが有るとのことです。見物に行きました。しばらく待つと車を先頭に大変美しい民族衣装をまとった沢山の、数種の楽器とかなり大きな規模の行進が続きました。そしてその最後に緑色の旗を持ったエスペ란ティストの団が続きます。どうやらこのニュースを聞き付けて世界大会に参加していたエス

ランティストも飛び込みで参加しているようで日本人もかなり見えます。前回参加したスペインのバレンシア大会でも同じように花祭りをしてくれたことを思い出してタンペレでの街を上げての歓迎に感激しました。

今回はエスペラントを入門したての女性と参加しましたが、彼女は趣味の陶器を見つけたり大会での雰囲気を楽しんだりとそれなりに満足してくれたようです。また大会期間中に彼女が一度体調を崩してしまい心配しましたが、同じところに一週間滞在していたお陰で大事には至らず現地で回復して無事帰ることが出来ました。私も帰国してから時差ボケで少々参りましたがご一緒して下さいの方がいれば、来年またすぐの参加は無理でしょうがエスペラント語を勉強してその時に備えたいと思います。

札幌エスペラント会近況

Novaĵo pri Sapporo Esperanto Societo

馬場 恵美子

★6月10日からの入門講習が10月初めで終了を迎える。夏の暑い時期に1時出席率が低下したが殆どの者が最終章まで参加したことになる。昨年の募集では途中で流会となっただけに非常に嬉しい。さてこれからの問題は彼らを如何にしてエスペラントに親しんでもらうかだ。
★毎週土曜日札幌市職員会館午後1時からのテキストが変わりました。PAROLADOJ DE D-RO L.L.ZAMENHOFでザメンホフの演説集です。第1回世界大会の演説から始まる格調高いものでエスペラントには必読の本です。テキスト希望の方は金森さんまでご連絡を。

(電話 011-643-3771)

S-ro OOGA (Hokkajda Universitato) raportas pri
Ĉi-jara UK (Tampere) kaj IJK (Serovo)

UK, IJK 報告 (北大 大鋸敏雄)

S-ro OOGA, nova samideano nur unujara post la eklerno, ĉijare partoprenis en UK kaj IJK. Kvankam li konfesas, ke li ne povis sekvi la diskutadon en kunsidoj, li povis ĝui unuopajn interparoladojn kun diverslandaj samideanoj. (A. HOŠIDA)

★#12367541 95/08/19 20:32:20

Date: 19 Aug 95 20:30:52 JST

こんにちは、大鋸です。

UK, IJKのあとオマケの旅を楽しんできました、昨日帰ってきました。SESの今日の会合に顔を出すつもりだったのですが、墓参りに行って学校に寄ったら、時間がなくなってしまいました。また来週にでも行く事にします。

インターネットのUKニュース読みました。

< #560 若い人たちが26日に開いた「模擬国連」について。個人の意見でなく国家を代表してその合意を築く外交官の仕事はなかなか大変なもの、と実感したというが、エスペラントによって通訳なしの国際会議が開けることを示すために毎年やったらいい、との意見。>

ちなみに、大鋸もその場にいまして、残念ながら私の力では全然話に付いて行けなかったのですが、修正に次ぐ修正を施した決議文を、葬り去る事に成功したポーランド代表のアンドレイ君(綴りはあやしい)はAmasloĝejoで私のとなりでして、2回も提案を通したとご満悦でした。ちなみに彼はエスペラントを始めて2年とか。

まだ、相関詞をととき間違えると、必ずしも言葉は完ぺきではないのに、ちゃんと、どんどん変化する話を理解して、提案までしてしまうあたり、ヨーロッパの人の上達は実に早い。悔しいですね。

< * ところでUK以上に多くの記事が出ていたのは、

フランスの核実験に対する反応で、次に示すように、皆反対のようです。>

IJKでは8月5日に長崎で被爆した貞子の話(注)をした後、鶴の折り方を教えて折ってもらいました。翌6日には広島を記憶する集いを開いて、広島、長崎での原爆使用に関する事実報告の後、討論。この中味が興味のあるところなのでしょうが、Bedaŭrinde, ĉar mankas al mi kapablo de la lingvo, mi povis kompreni preskaŭ nenion.

その後、UsonanoのMikoの提案で決議文を作ろうということになって、Usonano, Aŭstraliano, Japanoともう一人どこの人だったかよくわからないのですが、4人が中心になって決議文を作り、署名を集めました。ちなみに、この決議文を日本語に翻訳して、週間金曜日あたりにも投稿しようという話になっています。

注: 長崎(だったと思う)で被爆した貞子が、千羽鶴を折り始め、六百と少しまで折ったところで亡くなってしまい、クラスメイトが続きを折って千羽にした。その後、千羽鶴は核兵器反対運動の象徴となった... といった話です。

IJKのPartoprenanto el japanioの友達がモスクワ放送の日本語部に勤めているとかで、モスクワに行ったときに彼の所に泊めてもらったのですが、エスペラントの大会でロシアにきていると云うと、興味を持ってきて、インタビューを受け、主にIJKの話をしてきました。あまり上手に話は

出来なかったのですが、編集して10分ぐらいの番組にはなるだろうとの話でした。放送時間、周波数は分かりませんが、ちかいうちに放送になるかもしれません。

以上、取り急ぎ、ご報告まで。

大鋸敏雄 ooga@e2.hines.hokudai.ac.jp

(注の注-星田) IJK で話された貞子(被爆当時12才の佐々木貞子)は広島でのことで今広島の平和公園に「少女と千羽鶴」の碑が建っています。この話は共同映画社の「千羽鶴」になって上映され、シナリオは -SCENARIO- MIL PAPERGRUOJとして 에스ベラント訳があります。

なお IJKでの「ヒロシマ・ナガサキ原爆50周年に当たっての決議」は次の通り。なかなか立派な内容です。

Rezolucio pri atombomboj

Memorante la teruran detruon de Hiroŝimo kaj Nagasako kiu okazis antaŭ kvindek jaroj dum atombomba atako,

Prizorgante la homojn de la nuna kaj estontaj generacioj kaj la medion de la tuta

tero,

Ni subskribantoj

deziras liberigon el timo pri uzo de atombomboj kaj pri kaŭzota katastrofo;

atestas ke ia ajn uzado de atombomboj, inkluzive testadon,

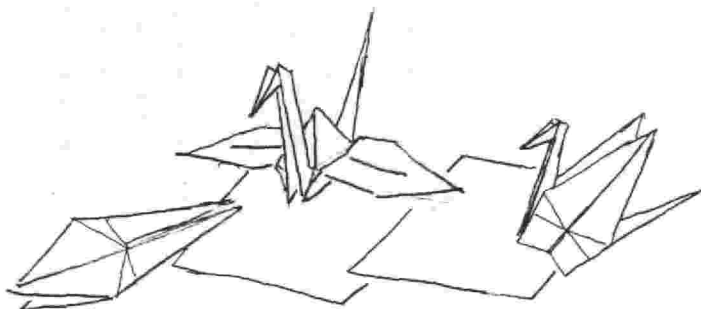
celas militan rimedon kaj tial kontraŭstaras

fundamentajn homajn rajtojn;

postulas ke ĉiuj ŝtatoj posedantaj atom-armilojn traktu

koncernajn interkonsiliĝojn pli serioze kaj ke ĉiu individuo premu sian registaron kaj eventuale aliajn tiucele.

Tiu ĉi rezolucio rezultas de "memorkunveno pri Hiroŝimo" kadre de la 51-a Internacia Junulara Kongreso en Serovo (apud Sankt-Peterburgo), Rusio je la 6-a de aŭgusto, 1995. Tiun ĉi rezolucion subskribis 87 personoj de 21 landoj.



トペリウス童話とともに



万 沢 ま き

岩波少年文庫の創刊から四十五年、そしてわたしの訳書『星のひとみ』が少年文庫のお仲間に入れていただけてから四十二年。なんとまあ長いことお世話になったことだろう。

北欧がわたしには全く縁のない遠い国だったころ、その北欧の中の小さな国フィンランドのお話が、ある時まるで星のようにわたしの手の中に落ちて来て、やがて日本の子どもたちに、こんなに愛されるようになろうとは、ほんとに思いもよらないことだった。

フィンランドのお話といっても、トペリウス童話はすべてスウェーデン語で書かれているので、当時スウェーデン語を学んで

いたわたしの仕事となったわけだが、なんでもまたスウェーデン語など学んでいるのかと、よく人にたずねられた。事の起りは、スウェーデンの国宝的作家といわれていた

セルマ・ラーゲルレーヴの作品を、国際語エスペラントの訳書で読んだことだった。わたしは、かの女の作品に強く心をひかれたが、日本語訳は二、三にすぎず、かの女の作品にふれるには、スウェーデン語の原典によるしかなかった。そこでわたしは大決心をして、スウェーデン語を学び始めた。昭和十四年のことである。

当時スウェーデン語を学ぶ方法は全くなかった。たまたま手に入った英語がきの独習書で学び始めた。もとより辞書などある

うはずがない。独習書の中の言葉を拾い集めて、自分の辞書を作った。蘭学事始の気分である。

だが、その独習書をひと通りすませると、もうその先の道がない。勇を鼓して、駐日スウェーデン公使に手紙をかって協力をお願いした。折返し返事が来て、公使館に招待された。そして公使の心づかいで、公使館員のO氏と、日本語・スウェーデン語の交換教授という形をとって、月謝は不要ということになった。O氏との交換教授は一年余り続いたが、第二次大戦の機相がけわしくなるにつれ、外国人との交際は困難になり、わたしの学習はここでまた頓挫。その時お会いしたのが外務省の市河彦太

「トペリウス童話とともに」と
「美術とのあい」は、岩波出版
社の小雑誌「図書」6月号に、

「エスペランティスト 健在」
と「過渡期のヨーロッパ」は、
北海道新聞4月13日夕刊に、
それぞれ載ったものです。



郎氏。北欧に長く勤務され、フィンランド
公使も務められた方。わたしがスウェーデ
ン語の学習をしていることを、ことのほか
よろこんで下さって、向うで求められたス
ウェーデン語の本を何冊も下さったが、そ
の中にフィンランドの作家トペリウスの童
話集四冊があった。市河さんはトペリウス
の美しいお話が、北欧はもとより、世界中
の子どもたちにどんなに愛されているかを
語って、この訳業をわたしの仕事にしては
どうかと、すすめて下さった。

にわたしの手の中に落ちて来た星そのもの
のように思われて、ぜひともこれを日本の
子どもたちに伝えねばならないと、心にき
めた。ちょうどその時、スウェーデンから
辞書が届いた。スウェーデン人のためのエ
スペラントの辞書である。わたしはこれを
唯一のたよりに、このお話と取り組んだ。
トペリウス童話の最初の一冊「小鳥の歌と
物語」(実業之日本社)が世に出たのは、昭和
十七年の夏だった。そして太平洋戦争。
敗戦後の混沌の中から学習再開を志した
時、手をかしてくれたのはスウェーデン本
国のエスペラントの仲間たち。わたしのほ
しい本を、八方手をつくして送ってくれ
た。こうしてわたしの学習は再びすべり出

した。そして昭和二十六年、わたしをスウ
エーデン語に引き入れた、ラーゲルレーヴ
の『沼の家の娘』が三笠書房から出て、二
十八年、トペリウス童話『星のひとみ』が
岩波少年文庫のお仲間に入った。
思えばその間大勢の方々に、さまざま
ご支援をいただいた。思い出されるのは、
『沼の家の娘』の帯に、すてきな言葉を下
さった、平林たい子さん、清水幾太郎さ
ん、谷川徹三さん、あたたかいエールと
もにご自作の「木蓮の図」を下さった武者
小路実篤さん、そして当時の少年文庫編集
部の石井桃子さん、いぬいとみこさん。八
十四歳女のたのしい回顧である。

(まんだわまき・翻訳家)

日中友好文通の会から最近「書簡集8
・『下海(シアハイ)』の国から届いた
手紙が刊行された。『序文』で同会会
長の栗栖継氏は、中国の市民の素直な意
見が貴重、と述
べている。



たとは上海
市の四十六歳の
男性は「文通を
始めて十一年」
という手紙で
「建物は高く、街は美しくなりました。
あなたとお友達が上海での商売に関心が
あれば、私は喜んでお手伝いいたします」

<中国>

と書いている。高度経済成長下の中国へ、
の過熱気味なビジネス志向がうかがえて
興味深い。ちなみに本書表題中の「下海」
とは副業を行うという意味である。
経済一辺倒の風潮の中で、地味な文化
事業に励んでいる人もいる。黒竜江省の
詩人エロシニコの中国語版算話集「幸
福の船」を探し、ついにその編集に携わ
った文豪巴金(一九〇四―)からコピー
を送ってもらった。エロシニコも巴金
もエスペランチストなのである。扉のペ
ージには巴金の自筆で「四人組粉砕後、
私はこの本を取り戻した。大
変うれしい」と書かれていた

エスペランチスト“健在”

ろうあ学校校長は「金もつげよりも、エ
スペラント文化のために」という手紙で、
発行部数二百のエスペラント文芸誌を維
持する苦心を書いた。
四人組”逮捕により文革が終息して
十九年、中国の変化はいよいよ加速して
いる。それでも、エスペランチストの良
心の伝統は今日も続いているようであ
る。

この男性は日本人エスペランチストの
依頼を受け、一九七〇年代に東京、上海、
北京を駆け抜けていった異色のロシア言
者。
(藤井 省三・東大教授)

美術とのであい——トルストイ『イワンのばか』

この本は、書名となっている「イワンの
ばか」をはじめ数編の物語からなってい
る。いずれもロシアの民話や伝説を借り
て、トルストイが人間を救う道を説いたも

のであるが、この本をたまたま本屋で目にし
たりすると、つい懐かしくなって手にする
ことがある。

少年時代の絵の先生のことを思い出すか

酒井忠康

らである。なかでも「愛のあるところには神もいる」という一編は、わたしの少年時代の思い出のなかでも特別な意味をもっている。話のなかに出てくる雪かきの老人ステバーヌイチは、わたしと絵の先生とが共有しえた人間像の、もつとも感動的な姿となつてゐるからである。大要婆ないかたをすれば、もしこの絵の先生からステバーヌイチの存在を教えられなかつたならば、わたしはまったく違った人生を生きていたかもしれない、そういう想いかられることがある。それだけに忘れられない思い出の一冊となつてゐる。

先生の名は長田正之助といい、渾名を「ヤギさん」といった。由来は山羊を飼っていたからである。ちよつと古風で頑固なひとだったが、知るひとぞ知るエスベラントイストでもあつた。このヤギ先生は、わたしの郷里Y町の高校の先生をするかたわら内職に画塾をひらいてゐた。毎週日曜日に画板をさげて、このヤギ先生のところに通つた。敗戦後の混乱からすこしずつ回復の兆しのみえた頃である。

Y町というのは、北海道の日本海に面した、積丹(シヤコタン)半島の付け根のところにある小さな港町である。その昔、ニシ

ン漁でたいへんに栄えた町であつたが、わたしのこどもの頃にはすっかり寂れて、半農半漁のいたつて平凡な町となつてゐた。町は東西に分断されてゐて、東のほうには駅があり、なんとなく新興地の雰囲気があつた。それにたいして西のほうは、かつて古い漁場だつたことをものがたる網元の家や座船があつたりして、いかに風雪を刻んできたような光景であつた。わたしはこの西に生まれ育つた。ヤギ先生の家は、この東と西との中間点の、小高い丘の上にあつて、わたしが通つた頃にもまだ山羊を飼つてゐた。

ある日、ヤギ先生の家で一枚の絵をみせられた。縦長の大きな絵で、画面の中央にひとりの老人が立つてゐる。冬枯れの木々と辺り一面の雪。目を閉じて折つてゐるようなその老人の足元にはスコップが衝き刺さつてゐる。ヤギ先生は、第五福竜丸で被曝した乗組員の死亡に怒りを感じて絵筆をとり、モデルの老人は水産試験場のAさんで、トルストイの物語に登場する雪かきの老人ステバーヌイチからヒントをえて構想したのだ、と説明してくれた。画面の上部を壁龕にして、画題とした「愛のあるところには神もいる」という意味の文字をエス

ペラント語でかいてゐた。

画題の意味するところをわかりかけたのは、ずつと後のことであるが、わたしには衝撃的な画像であつた。吸い込まれるような気がした。なにか辛い感情にも襲われた。しかし、厳寒というよりは春をまつ季節の雰囲気があつて、そのせいだろうと思ふが、いつまでも眺めてゐることができた。外にあるものをただみるだけではなく、人間のところにそれがどのようにうつるかをみなければならぬ、そんなことをこの絵は語つてゐるようにも思つた。

その後しばらくして、ヤギ先生の一家は上京した。わたしは寂れた町の、ごくありふれた田舎の少年期を過ごして、ことさらな目的もなく上京することになつた。

偶然がいくつか重なつて、いまの仕事をつづけてゐる。しかし、もどをたどれば、このヤギ先生の絵が、わたしと美術とのむすびつきの原点となつてゐたような気がする。無垢の魂に苦悩の影を落としたこのステバーヌイチの画像に、やがてわたしは生命のかがやく瞬間もあるということを感じるようになつたが、ずいぶん長い間このステバーヌイチの画像の外へ出られないでゐた。

(さかいただやす・神奈川県立近代美術館)

過渡期のヨーロッパ

Marie Nishimori

欧州は一つ

この一月、久しぶりに忙しい毎日を送りました。

まず、ニューヨークでロックバンドの取材をして、次の週にはモナコで映画「007」シリーズの新作の取材。

南フランスでの日焼けが治らないうちに、今度はストックホルムでロックスターのインタビュー。

その後、思つく暇もなく、ブリュッセルでベルギー映画祭の取材をし、オランダに帰ったその日にフランクフルトから仕事の依頼があつて、二日だけ休んで即またフランクフルトに行ってきました。

去年も、イタリア、フランス、ドイツ、イギリスを行ったり来たりして「ヨーロッパは本当に狭い」と痛感していました。この三月からイギリスを除く欧州連合(EU)諸国はほとんどで空港でのパスポート検査がなくなったので、ますます「ヨーロッパは一つ」という感じになってきました。

もっと詳しく言うと、ドイツ、オランダ、フランス、ベルギー、ルクセンブルク、イタリア、スペイン、ポルトガルの間を行き来する場合は、これらの国の住民ではなくても空港でパスポートを見せる必要がなくなったのです。

EU諸国内を単で移動する場合は一九九九年から既に国境での検査がなくなっていた、といふことですが、空港でもパスポート検査がないなんて、近未来の世界に一歩先に到着してしまつたような気分です。

で、ひとたびこの状況に慣れてしまつと、成田空港やアメリカの空港の入国審査の長い列が、なんだか後進国での出来事みたいに見えるのも不思議ですね。

でも、まだまだ真の意味でヨーロッパが一つになつたわけではありません。

四つの財布

まず、お金。

わたしは去年は、外国に行くたびにオランダのギルダーを旅行先の国の貨幣に替えて、帰つてくるに残つた外国の貨幣をまたギルダーに替えていました。

でも、何度もそれをくり返すと手数料を引かれるばかりでお金がどんどん目減りしてしまつたので、今年に入つてからは、財布を四つ買って、それぞれフラン用、マルク用、リラ用、ポンド用の財布にして、フランスに行くときはフラン用の財布を持って行く、といふことにしました。帰つてきても、フランはその財布に入れたまま

で、次にフランスに行くまで引き出しにしまつておきます。

ヨーロッパ統一貨幣エキユをつくらうというフランは、ずいぶん前から話し合われてはいるものの、経済大国のドイツと他の国の足並みがそろわないので、今世紀中に実現するとはどういふ思えません。

仮に、二十一世紀にエキユができたとしても、各民族の間の根深い差別意識を消し去るのは今世紀中どころの騒ぎじゃありません。

見えない壁

イギリス人はいまだに自分たちのことを、七つの海を支配する民族だと大きな勘違いをしているし、フランス人はフランス人以外

は人間ではないと、これまであきれるほど尊大な態度をとり続けていた。ドイツ人はイタリア人を意地悪だとバカにし、イタリア人はドイツ人をあはれだとさげすみ、オランダ人はドイツ人を嫌い、ルクセンブルク人はベルギー人を田舎者扱いし、フランス語圏のベルギー人は自分たちはフランス人だと思つてるのでオランダ語圏のベルギー人を「級市民扱いする」とい

う、エゴ、優越感、憎しみの三つどもえ、否、十四度でもえ状態です。だから、言葉の壁たつてその間

単には崩れませんが、イギリスが、英語こそが世界の言語だと主張すれば、フランスだつて負けじと同じことを主張する。ドイツも経済力を武器にドイツ語を押し進めようとするし、スペインもスペイン語を話す国が世界中で一番多い、と理論武装してくる。

EUの会議では現在十一の言語が飛び交っています(加盟国数は十四ですが、ベルギー、ルクセンブルクがフランス語、オーストリアがドイツ語なので)。

通訳に払う資金も膨大なもので、すし、ポルトガル語からスウェーデン語に訳せる通訳とかギリシャ語からフィンランド語に訳せる通訳なんて、まずめつたに見つかりません。

EUの会議では、経費節約のためにもユニケーションの迅速化を図るためにも、 에스ペラント語を真剣に見直そうという動きが出てきています。

この先、ヨーロッパはいつたいていどうなつてしまふのかしら。

ヨーロッパが大きく変わらうとしている過渡期に、オランダに住むことができ、本当によかったと思つています。

(西森マリー=著述家、サイノン 筆者)

★ 会費のお礼 : HEL DANKAS(-os) POR VIA KOTIZADO ★

95事業年の会計は、9月10日をもって締めさせて頂きました。過去に逆上って調べ直したところ、決算時現在、94年の会費を払っている現会員の方は、71名になります。

この機関誌を手にする59回大会で、96年の事業が決められ、会計年度は、9月11日から、96年になっています。

会費などを振り込まれる際は、必ず、内容をお書きください。

☆ ☆ ☆ ☆

95年6月8日～9月10日の間に下記の方々から、94年、並に、96年以降分会費と、ご寄付をいただきました。ありがとうございます。(敬称略)

[94年分会費] 山口紀代美

[96年以降分会費] 馬場恵美子(~97) 木村喜壬治(~97) 沢谷雄一(~99)

[ご寄付] 山岸悦子1500円、木村喜壬治2500円、山本昭二郎2000円

☆ ☆ ☆ ☆

95年9月10日現在、下記の47名の方々から95年分会費、家族会費、購読会費をいただいています。ありがとうございます。(敬称略)

[95年分会費]

阿部映子	後藤義治	山本昭二郎	小林貴美子	吉原正八郎	江口音吉
児玉広夫	渡辺康子	宮岸忠孝	桜居甚吉	小熊鏖一	馬場恵美子
坂下正幸	星田淳	藤巻謙一	影浦英明	山岸悦子	赤倉正治
二郷美砂子	岩崎泰夫	柴田智美	大原喬	末沢邦夫	港利子
新田為男	大山口誠	濱田國貞	高橋達治	須藤昭三	渡辺晋道
三ツ石清	山下博子	伊藤直樹	小川己久雄	金森美子	那須栄
今野弘美	義村政見	横山裕之	大鋸敏雄		

(以上は、ヘロルド57号に掲載分の再掲載です)

沢谷雄一 山口紀代美 加賀谷勇 木村喜壬治

[家族会費] 星田文子 影浦泰子(以上、再掲載)

[購読会費] 竹内義一

ŪATANABE Šindoo raportis

¿Cu vere? YAKULT estas JAHURTO
 本当かな? ヤクルトはエスペラント語の
 JAHURTOから?

(北海道新聞4月13日夕刊)

会社雑学

「ヤクルト」は、万国
 共通語を目指すエスペラ
 ントで「ヨーグルト」を
 意味する「JAHURTO
 O (ヤフルト)」を基に
 した。

京大医学部で微生物の
 研究をしていた故代田
 (しろた) 稔博士が1930
 年(昭和5年)、病原菌
 に強く整腸効果の高い乳
 酸菌の一種を強化育成す
 ることに成功、「ラクト
 バチルス・ガゼイ・シロ
 タ株」と名付けた。その
 菌を使って製造した乳酸
 菌飲料がヤクルトだ。

福岡市に「代田保護菌
 研究所」を設立した代田
 氏は、35年(昭和10年)

エ
 ス
 ペ
 ラ
 ン
 ト
 語
 を
 基
 に

Yakult

にヤクルトの販売を開始したと
 ころ、高名な博士が発明した飲
 料としてブームになり、全国各
 地に「代田保護菌普及会」とい
 う販売組織ができた。

55年に販売を統括する「ヤク
 ルト本社」が東京に設立され、
 代田氏が社長に就任。社章はシ
 ロタの判じ物で、4つの「ロ」
 を田を変形させた図の周りに配
 置した。

現在は化粧品や医薬品、食品
 などの分野でヒット商品群をそ
 ろえ経営の多角化に成功してい
 る。



生涯学習のマスコット
 “マナビイ”

「まナビ」でひらく、北のふるさと
まナビピア '95
 北海道

Heroldo de HEL

第58号(1995.9.30)

北海道エスペラント連盟機関紙
 編集部

〒001 札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 圃011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟